

事務事業評価シート

評価実施年度：平成29年度

上位の施策名称	施策I-2-1 売れる農林水産品・加工品づくり
---------	----------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	水産課長 鈴木岳明	電話番号	0852-22-5311
----------	-----------	------	--------------

事務事業の名称	水産技術センター基礎的試験研究費		
目的	(1) 対象	漁業者	
	(2) 意図	安定的な漁業生産によって経営を安定させる。	
事業概要	水産資源、漁場環境等のデータ収集や増養殖技術の開発、水産加工業への技術的支援を通じ、本県水産業の継続的な発展に資する基礎的な研究を実施する。資源管理手法の確立と資源の維持増大を図るため、ヤマトシジミの資源動向や生息環境をモニタリングし、漁業者等が取り組む資源管理と増殖に係る情報を提供する。		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 シジミの生産金額	目標値	24.0	25.5	27.0	28.5	30.0	億円
		取組目標値						
	式・定義 シジミの生産金額	実績値	23.0	28.1				
		達成率	95.9	110.2	-	-	-	%
2	指標名	目標値						
		取組目標値						
	式・定義	実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	19,090	20,577
うち一般財源 (千円)	19,090	20,577

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- ・宍道湖におけるヤマトシジミの資源量は平成24,25年には低水準であったが、平成25年秋季に増加して以降は高水準な状態にあり、漁獲量は近年増加傾向。
- ・島根県におけるヤマトシジミの生産量は4,172トン（前年比：166トン増）
- ・指標となるシジミの生産金額は、目標値を上回った。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- ・シジミ資源の変動要因の一つとして、宍道湖内の塩分濃度と餌となるプランクトンの組成の関与が明らかになりつつある。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- ・シジミ資源の変動要因について解明されつつあるが、環境条件など不明な点が多く、将来の資源量が予測できないため、資源変動に応じた持続的利用の対応策を講ずることが困難。
- ・中央市場において一時的に下落したシジミ価格が回復していない。

②困っている状況が発生している「原因」

- ・シジミ資源の変動には様々な要因が関係しているが、その要因により資源量がどの程度変動するかは明確になっていない。
- ・価格低迷は、全国的なシジミ需要の落ち込みや他産地との競合が関係していると考えられる。

③原因を解消するための「課題」

- ・シジミ資源の変動要因について、宍道湖の生態系と物理環境及びシジミ資源との関係モデルを構築し、シミュレーションによる検証を要する。
- ・シジミ価格向上の方策の検討。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- ・シジミについては、宍道湖保全再生協議会が中心となってシジミ資源の変動要因を解明することによりシジミ資源の変動を予測する生態系モデルを構築し、シジミを含めた水産資源の安定化のための方策を提言する予定であり、その提言を受け、今後の対策について検討する。
- ・シジミの価格向上については、宍道湖漁協が検討する販売力強化の方策を支援。